



## 竹の秋

校長 今野 敏晴

学校の北側に竹林が広がっています。通勤しながら毎日竹林を見ていると、タケノコの成長には、改めて驚かされます。タケノコが少し大きくなったかなと思って見ているとどんどんと成長し、皮をはぎつuitには、親竹の背丈まで伸び、枝を伸ばし、新しい葉を開いています。竹は1日で1メートルも伸びることがあるそうです。1本1本の竹は、天に向かって真っすぐに伸びています。自分の意志と努力によって精一杯伸びていく姿は本校の子ども達と重なるところがあります。

若竹の成長に頼もしさを感じることはありませんが、驚異的な成長には、秘密があります。竹林の地下では、地下茎が、網の目のようにつながりあっていて、この網の目のような地下茎を伝わって親竹から養分をいただいているのです。親竹は自らの成長を犠牲にしてまでタケノコに養分をおくっているため、5・6月頃には、周りの樹木が緑一色になるのに竹だけが、葉を黄金色にして葉を落とすことから「竹の秋」と言われています。自分の力で伸びているように、見える若竹の成長は、実は、竹同士がお互いにつながり、支え合い、助け合っているからなのです。このお互いにつながり、支え合い、助け合う関係作りが学校生活ではなによりも大事です。「学級・学校」という共同体の中で、保護者や地域と連携しながら、子ども達が主体性を発揮しつつ、共に学び合い、刺激し合いながら学びを深めていく。その道筋を整理し子どもの力を引き出していくのが学校の役割です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のためとはいえ、学校としてのこの大事な役割を果たせなかった3か月でした。ようやく臨時休業が終わり、6月から分散登校ではありますが授業再開となりました。教職員は子ども達との出会いを楽しみに、学校再開後、円滑に授業に臨むことができるよう準備を進めてまいりました。まずは、子ども達の健康管理に十分に気を配り、落ち着いた学校生活ができることを優先していきます。そして、新型コロナウイルスの感染の様子を見極めながら、徐々に人と人のつながりを大切に学習を進めてまいります。クラスの友達、異学年の友達、学習ボランティア、地域の方々等と人と人のつながりの輪を広げていきます。学援隊の方々には、すでに登下校の見守りをお願いしておりますが、きらきらブックパートナー（図書ボランティア）や他の学習ボランティアの方々には、秋頃からの活動を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

「竹の春」もあります。タケノコが成長して、高く伸び、若竹が鮮やかな緑の葉をなびかせる初秋頃の竹の姿を「竹の春」と呼ぶそうです。「竹の春」のように子どもたちが立派な若竹に育つには、保護者や地域の皆様とのつながりは欠かせません。世界中が混乱し、正しい応えが見つからない今の状態こそ、未来社会の縮図ではないでしょうか。このような時だからこそ、この世界のピンチを理解し、自分事として捉え、自分は、自分たちはどうすればよいのかを真剣に考えて行動する子どもたちを支援していこうと教職員一同、決意を新たにしています。子どもたちを「未来社会を共に創る仲間」として応援していただければ幸いです。

